

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 25 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	田島夏子

<p>1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)</p> <p>スリランカ</p>
<p>2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)</p> <p>International training program 2015</p>
<p>3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)</p> <p>平成 26 年 7 月 31 日 ~ 平成 26 年 8 月 17 日 (18 日間)</p>
<p>4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)</p>
<p>5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の渡航では、スリランカの wet zone, Dry zone, Montane zone という多様な気候帯の国立公園や自然保護区を訪問し、そこに生息する多種多様な動植物を観察することができたとともに、地元の研究者の話を聞き、その地域の生息地保護などの保全への取り組みにおける発展の歴史や現状の問題点などを知ることができたことが主な成果である。</p> <p><日程> 8/1 Arrive at Colombo 8/2 Inauguration ceremony 8/3 Shinharaja 8/4 Shinharaja 8/5 River clouse at Madu Ganda and observe turtle hatchery 8/6 observe coral reef at Hikkaduwa 8/7 Bundala national park 8/8 kataragama</p> <p>以下、写真とともに各プログラムの内容を振り返る。</p> <p>Shinharaja では、森林伐採から残った森の歴史を学び、プランテーションと森林保全の両立を図る取り組みについて知ることができた。古くからの知恵で、薬として利用できる植物がとて多く、興味深かった。</p>



森まではジープで移動

<平成 26 年 5 月 20 日制作版> 提出先: report@wildlife-science.org

野生ウツボカズラ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Blue Magpie



Jangle fowl

Kosgoda では、リバークルーズをした。カワセミ、ラングール、ミズオオトカゲ、Giant squirell など様々な動物を観察することができた。リバークルーズの途中では、シナモンの木からシナモンスティックを作る過程を見学したり、ドクターフィッシュのフィッシュセラピーを体験した。また、スリランカは世界でも有数のウミガメの産卵地であるのでそのウミガメの卵の保護施設を見学した。日本の屋久島もウミガメの産卵地であるが、屋久島ではウミガメが産卵にやってくる砂浜は全面立ち入り禁止にしていた。しかし、スリランカでは自由に観光客が出入りでき、保護施設の職員よりも朝早くに漁師が卵を発見し、違法に食用として売ってしまうことも多いと言われている。そのため、保護施設では卵を発見した漁師から密売するよりも高い金額で買い取り、孵化させて放流しているといくことを聞いた。砂浜を立ち入り禁止にすることはウミガメの保護には有効だが、きれいな砂浜はスリランカの観光資源であるため、現状ではとても難しいことであるということが分かった。卵を地道に保護していくのはとても大変な作業だが、今できる最善の方法なのだと感じた。



How to make cinnamon stick



Doctor fish therapy

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



1-days-old sea turtle

Hikkadua では、サンゴ礁が防波堤工事や観光用ボートによって破壊された事例を観察し、その後の Trinkomari における生きたサンゴ礁との比較を行うことができた。グラスボートがスノーケルをしている客のすぐ近くを通過していて、いつ事故が起きてもおかしくない状況だった。Mr. Arjan の話にもホテルと政府、地元民との話し合いがうまくいかないという問題点が上がったように、しっかりその土地に関係する人々で意思疎通を行い、ルールを定めていかなければ、自然保護以前に、観光客の安全も脅かされてしまい、ビジネスが成り立たなくなるのではないかと考えた。このような問題は、後の訪問先においても度々感じたものであった。

国立公園としては、Bundara national park と Yara national park という2つの国立公園を訪れ、アジアゾウやラングールなど多くの野生動物を観察したとともに両国立公園の比較も行うことができた。Bundara ではほとんど貸切状態で野生動物を観察できたが、Yara では観光客がとても多く、公園内の道路がジープで渋滞していることに驚いた。ジープは毎日最大 350 台出るということを聞き、観光商業、地元民の雇用と保全の両立がここでも問題になっていると感じた。

また、渡航全体を通して、国立公園や保護区となっている場所でもゴミが多くポイ捨てされていることに驚いた。野生動物、自然環境の保全においては、政府の大掛かりな対策も必要だが、地元の人々の理解と心構えが大事だと感じた。

いろいろな問題点を感じたが、どちらの国立公園でもアジアゾウやワニを初めとして多くの野生動物を観察することができ、両方の公園に生息する動物種の違いも見ることができ、とても充実したプログラムであった。

また、国立公園内のバンガローで、2階のテラスに置いてあるベッドでほぼ野外で星を見ながら眠りにつき、夜明けの鳥の声で起きるといっても素晴らしい施設で宿泊することができたのが特に思い出深い。ほとんど雨が降らず、気温も下がらない dry zone ならではの施設で、とても貴重な体験をすることができた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Purple face langur in Bundara Elephant in Bundara



Wildlife rodge Elephants in Yara



Beautiful rake in Yara

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

標高 2000m の mountain zone は、wet zone や dry zone と全く異なる植生を観察することができた。気温も夜は 10℃以下まで下がり、同じ国とは思えない体験をした。また、ここで参加者一人一人が今までのプログラムを振り返り、それぞれのプログラムの見学先についての概要や、問題点についてプレゼンを行うことができたのもとても有意義であった。まとめる時間が短く苦労したが、自分のテーマについてはこの機会に理解を深めることができたし、他の参加者のプレゼンによって、自分では気が付かなかった視点で考えることができた。



Beautiful rake in Yara



Male Sanbar

最後は、pigeon island でサンゴ礁の観察と closing ceremony を行った。Pigeon island は Hikkaduwa とことなり、生きたサンゴ礁がまだ多く残されており、魚の種類も多様で、とても観察していて楽しかった。しかし、観光客が多く、白化したサンゴが砂浜一面に広がっており、この生態系をこれ以上破壊しないために保護の意識を高めていかないといけないと感じた。

この研修を通して、スリランカの持つ生物相の多様性を、身を持って学ぶことができた。また、Jayewardenepura 大学の皆様を初めとして、講師の方々や、一緒に旅をしてくれた責任者の皆様まで、スリランカの人々のやさしさに触れることができ、大好きな国の一つになった。

このプログラムで生態系の保全について見て、感じて、考えたことは、今後の自分の研究の方向性を定める際に大きく役立つと思う。

今回は観察することはできなかったが、自分の対象種である鯨類もスリランカで多く観察することができるため、今回お世話になった研究者の方々に協力をいただいて、またスリランカを訪問して観察してみたい。

6. 謝辞

このプログラムを企画、準備、そして全ての工程でサポートしていただきました、Jayewardenepura 大学の皆様、各地でお世話になった講師の皆様に深く感謝いたします。共に旅をし、私たちのケアをしつつ様々なことを教えていただいたマイク先生、田中先生、Dr. Charmalie、Dr. Kamal に深くお礼申し上げます。に感謝の意を称します。また、何から何まで、私たちの毎日の生活のサポートをしていただいた、Mr. Atheeq, Ms. Widayani に心から感謝いたします。最後に、このプログラムを支援して下さった PWS プログラムの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。